

小学校でスタート!

対話による美術鑑賞

子どもたちの豊かな感性と情操を育みます

美術館を持たない自治体では全国で2例目、都内では初の事業です。

市では市教育委員会と連携し、市民ボランティアが市立小学校に出向いて、子どもたちと対話をしながら美術鑑賞をする事業をスタートさせました。学校と市民がアートによってつながり、新しい地域交流と子どもの未来をつくる、そんなすてきな事業です。

この事業は、平成24年3月に策定した文化芸術振興計画を推進する取り組みで、子どもの観察力・思考力・コミュニケーション能力の向上を図るとともに、文化芸術活動を支える市民ボランティアとの協働を目的としています。

◆文化振興課 係(☎042-438-4040)

「対話による美術鑑賞」とは?

一般的には、1988年からニューヨーク近代美術館で開発された、グループで対話をしながら美術作品を鑑賞する方法のことをいいます。知識に頼らず作品をよくみることから始め、一人一人に「これは何だろう?」と考えることを促し、さまざまな意見を引き出しながら作品の見方を深めていく鑑賞方法です。

市民ボランティア「みーるさん」がサポート!

「対話による美術鑑賞」事業の要は市民ボランティアです。現在16人が登録しており、この事業を委託している認定NPO法人芸術資源開発機構(ARDA)による専門的な研修を昨年の10月から受け、自主練習も積極的に行っています。チーム名は「アートみーる」に決まり、市民ボランティアを「みーるさん」と呼んでいます。「みーる」は「見る」と「meal:食事」(「アートを味わう」のニュアンスを含む)の2つの意味を持ちます。

平成27年度には、市民ボランティアの2期募集を行う予定です。とっても元気で明るいすてきな「みーるさん」たちの仲間に入って、子どもたちと一緒に楽しみながら活動してみませんか。



「みーるさん」の研修風景
(アートカードと画像を使った練習)

小学校8校で試行実施!

小学校における本事業の第1号として、6月25日に本町小学校で、第2号として7月11日に保谷小学校で、小学4年生を対象に実施しました。

子どもたちからは、たくさんの絵をみて話したり、友だちの話を聞いたりするのが楽しかったという声が多く寄せられ、先生からは、小学校の授業であまり発言しない子も積極的に発言していたという驚きの声もありました。美術鑑賞には正解・不正解がないということが、子どもたちの発言を引き出すことを容易にしています。

今年度は、向台・柳沢・栄・谷戸第二・保谷第二・住吉小学校でも試行実施します。栄小学校では、学校での授業と併せて美術館訪問も実施します。



2枚の絵のつながりを教えてね!

服の色が似ている

3枚の絵を使って物語を作ります

この作品の中で何が起こっていますか?

今後の展開は?

まずは、市内の小中学校での定着を目指しており、平成27年度は実施校を14校に増やし、平成28年度には全校で実施することを目標にしています。

「対話による美術鑑賞」は、子どもから大人まで楽しめるので、市民の皆さんにも体験会などを実施していきたいと考えています。

最新の情報は、市HPで随時お知らせします。

この事業をきっかけにアートを好きになる子どもたちが増え、まちのアート活動が活性化し、「文化芸術の香りあふれるまち」になるよう、市全体で盛り上げていきますので、皆さんもぜひ参加してください!